

第13回浅間・白根・志賀さわやか街道写真コンテスト審査会(R2.2.6)

【挨拶: 撓上委員長】

本写真コンテストは、スナップ的に撮影ができる独特な地域です。浅間・白根・志賀さわやか街道写真コンテストの目的である「ふれあい」が求められる写真撮影ポイントが随所に設けられています。

今回は、その目的に沿った写真が多くあると感じています。

今までの応募作品は、県下においても有名な方々の出展が多かったのですが、今回は目線が動き全く新しいアマチュアの方、いわゆる一般の方や観光客の方々からの写真が多数あります。と言うことで、おもしろい審査の仕方ができると思います。

今回の審査では、今までの2次選択方式を改め、1次審査のみで選考することから、町村の方が責任を持って、我が町の宣伝やPRができる写真を選定して欲しいと思います。

【総括: 田村会長】

皆様のお陰で審査を無事に終えることができました、また、素晴らしい写真が選定されました。「浅間・白根・志賀さわやか街道」は素晴らしい街道でパンフレット等も更新されました。もっと素晴らしい街道を皆様方にもっと知って頂ければと思っています。また、本写真コンテストを含めて今後もPRして行けたらと思います。

群馬県においては、4、5、6月とディステーションキャンペーン(DC)が始まり、長野と群馬を結ぶ「さわやかな街道」ですので、両県の交流人口が増えて、大勢の方が訪れてくれる街道になればと思います。

是非、皆様のご協力、お力を頂きながら、より「さわやか街道」を発信して行ければと思っていますので、今後も引き続きご協力を賜りたいと、今後も皆様にご協力して頂き努めて行きたいと思っています。

本日は、慎重な審議を頂き、素晴らしい写真が選定できました。

ありがとうございました。また、お疲れ様でした。

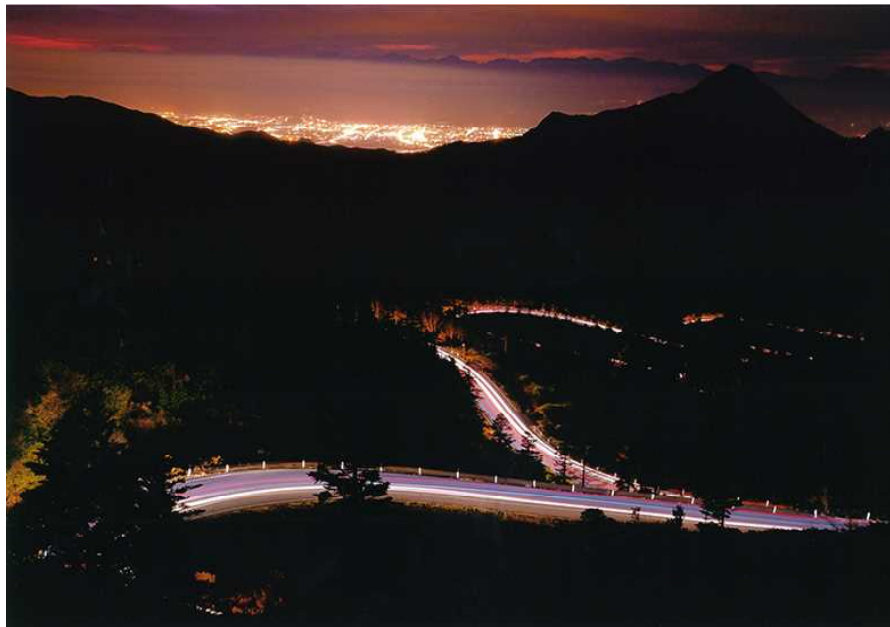
【審査結果講評: 撓上委員長】

浅間・白根・志賀さわやか街道写真コンテストの目的である「ふれあい」の主旨に則り作者の狙い、表現力と画面整理など総合的に自分で撮影場所を探しての応募作品が多く新鮮さがありました。広大な撮影地域の中で四季折々の瞬間とも言える新鮮なシャッターチャンスを探して自分の感性を生かしての風景・魅力が構成されており、完成度の高い作品が多く、感動した気持ちを作品に表して意欲を感じられました。

また、本撮影地域については、時季によっては、スナップ的に撮影できる独特なロケーションの要素もありますが、その中で現チャンスを生かした作品は目にとまり創作意欲を感じられました。

○さわやか街道賞 道路部門 「明かり292」 坂本 哲男

この作品は、浅間・白根・志賀さわやか街道写真の主である高原ルートの独特な地形・ムードを的確な時間にしかも背景にあたる明かりをさり気なく写しこんでおり情景描写も素晴らしく、構成的にも隙のない作品」になっております。



○さわやか街道賞 風景部門 「里山の春」 高橋 由雄

桜の全体像にこだわらず、さり気なく茅葺きの家屋に溶け込ませて雰囲気のある憩われる構成にして光線状態も効果的に良く雰囲気がたいへん魅力的です。フレーミングも見事で季節感あふれています。



○審査委員特別賞 道路部門 「暮れる山並み」 小林 芳夫

意味深な作品になっております。道路の個性と地域性を加味しております。
山並みの連なりを濃淡で表現して、バックの色彩もバランス良く構成して、しかも道路としての利用を寸景として印象的に仕上がっております。



○審査委員特別賞 風景部門 「朝の木戸池」 大島 繁

静穏なる静かな雰囲気表現されております。自然の限られた時季と時間がかもしたす厳しさ
と美しさが同居して自然の光景と広がり奥行きを感じます。
又、微細色の写り込みがマッチして記憶に残る作品です。

